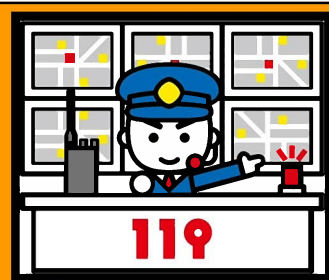


消防学校 ニュース



令和6年2月号

指令センター員講習(第6回)

～指令センターは最先着隊～

消防職員特別教育指令センター員講習を開催し、県内消防本部（局）から16人の通信指令業務従事者が参加しました。

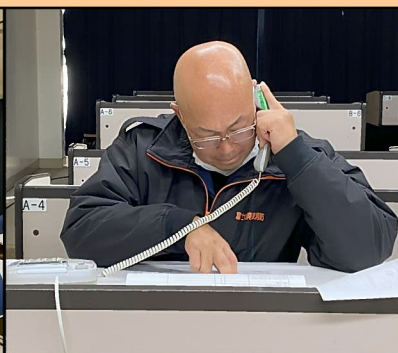
当講習は、通信指令業務に携わる職員が、組織や地域の枠を越えて経験や先進的な取り組みに関する情報を共有し議論を重ねるといった機会がないことや、通信指令業務に特化した専門的な教育を受ける機会がない現状を踏まえ、通信指令員の知識・技術の向上を図り、生命・身体・財産を守るという消防活動全般のレベル向上を目的としています。

今回で6回目の当講習は、学生から要望が多かった図上訓練や模擬通報訓練などの実科訓練の時間を拡充しました。

4日間という短い講習期間でしたが、指令センターとして必要なスキル向上のために、多岐にわたる講義、多様な模擬訓練を実施しました。



コミュニケーションスキル・ディスカッション



模擬通報訓練<通報者役>



模擬通報訓練<指令員役>



図上訓練(システムダウン想定)の様子



受講生 16人

【担当教官コメント】

通信指令センターは消防の窓口であり、通信指令員は119番通報の受信、的確な聴取、速やかな指令、現場活動隊への情報提供や指示、命令を行う、まさに“消防の司令塔”です。

携帯電話等の普及により多種多様化している通報形態に対応し、その後の消防活動に大きな影響を与えることになるため、的確な判断と危機管理意識を持って職務を遂行しなければならず、ストレスが多いと思いますが、その分やりがいも多いです。

「現場じゃなくても、救える命がある!」、「指令センターだから、救える命がある!」

今後の皆様の活躍を期待しています。 教務課主査 飯塚 誠（静岡市消防局から派遣）

消防大学校レポート

警防科第113期

Fire and Disaster Management College



Fire Suppression Course



FDMC

113th

From October.26 through December.15, 2023

self respect
～理想を追い求めて～

令和5年10月26日（木）から12月15日（金）まで、消防大学校の警防科第113期に入校しました。消防大学校の専科教育である警防科は「警防業務に関する高度な知識及び技術を専門的に修得させ、警防業務の教育指導者等としての資質を向上させる」ことを目的とし、警防業務に関する知識、技術、戦術・現場指揮の重要性、活動要領及び安全管理並びに教育技法についての講義や実技がカリキュラムとして組まれています。



街区火災図上訓練



実火災体験型訓練



学生企画訓練



警防科第113期

警防科では、「殉職者を出さない」をテーマに安全管理や指揮訓練を研修の柱とし、消防情勢や特殊災害等広い分野で幹部教育として必要な知識技術を学びました。

安全管理や指揮訓練では、基礎となる教養に始まり、シミュレーション、実科訓練と段階を踏みながら実施することで個の技量を知るとともに、次のステップまでに必要な課題を検討しながら改善に繋がる有意義な教育構成でした。また、研修のどの分野においても安全管理は必須課題として、常に意識付けされながら研修に臨む環境であったことから意識や行動が大きく変わるきっかけとなりました。このような教育環境やカリキュラム構成を、消防学校の教育に活かすとともに静岡県消防力強化に繋げていきます。

教務課主査 永田 裕司（菊川市消防本部から派遣）

消防大学校レポート 火災調査科第45期

令和5年10月26日(木)～12月15日(金)



研修の目的

「火災調査業務に関する高度の知識及び技術を専門的に習得、教育指導者としての資質向上」

この研修を通じて、火災調査に従事する責任と権限、火災調査の意義、調査業務の特質と留意事項など火災調査の重要性を改めて自覚しました。

調査業務に精通する方から火災調査書類作成、損害調査、電気火災調査及び写真撮影といった各要領について基礎的な部分から教授していただき、教育指導者としての知識を深めることができました。

燃焼機器鑑識では、燃焼機器、微小火源、電気火災、車両火災、化学火災、IHクッキングヒーター及び二次電池についての鑑識要領を学習し、幅広い分野について実際に分解して鑑識が行えたことは非常に貴重な経験となりました。

この研修の主な内容となる模擬家屋実習では、主任調査員を担当し、火災調査を実施しました。

発掘調査、実況見分及び鑑識見分を通して、調査業務の難しさを改めて感じましたが、学生同士で苦勞を共感し、意見交換しながら火災原因を究明することで得られた達成感は、火災調査のやりがいに通じるものであると感じました。

今後も自己研鑽に努めると共に、この研修を通して学んだ知識を消防学校の教育訓練に還元できるよう励んで参ります。

教務課主査 仲村 直樹 (下田消防本部から派遣)

消防団員特別教育 災害対策講習（第20回）

令和6年1月28日(日)に災害対策講習を実施し、県内の消防団から53人が参加しました。近年、激甚化傾向にある風水害に対応した図上訓練(消防団員向けに応用した「風水害対応イメージTEN」)、ドローンの導入や飛行に関する座学と実技、土砂災害対応訓練(ゾンデ棒捜索・応急土留め設定訓練)など、団員として火災以外の自然災害に活かせるカリキュラム構成としました。



(担当教官から)

熱海市伊豆山土石流災害(令和3年7月)、台風15号による水害(令和4年9月)に加え、能登半島地震(令和6年1月)など、火災以外の災害下で求められる団活動を改めて考える機会が近年増加しています。大規模災害時には、消防機関だけでなく地域の自主防災組織との連携も重要です。

今回の講習で得た知識や技術を所属の団に還元し、地域防災力の強化に引き続き努めていただきたいと思います。

教務課主任 高橋 謙一(県職員)

三沢校長から一言

1月12日、消防長会主催の「第31回静岡県消防職員意見発表会」に審査員として参加しました。発表内容は事前に予習していたのですが、発表者の大きな声、身振り手振りの説明に圧倒されました。発表者は携行品の持ち込みは禁止、原稿も持つてはいけません。それでもつかえる発表者は皆無、消防学校の訓練における入校式や修了式で紙1枚のあいさつさえ暗記できない私はちょっと恥ずかしくなりました。水難事故に備え、海水浴客にレジャーGPSの貸出を提案した下田消防本部の平山雄樹さん、救急車の到着前に映像通報システムを活用して傷病者のリアルタイム監視を提案した御殿場市・小山町広域行政組合消防本部の加藤卓大さんの二人が最優秀賞に輝き、県代表、開催地代表として、4月に静岡で開催される全国大会に出場します。健闘を祈ります。私も応援にいきたいと思っています。

2月1日には実地監査がありました。監査委員である竹内県議には、建設委員会で厳しい質問をされたことがあり、ちょっと苦手なイメージもあったのですが、引き続き優秀な消防士の育成に努めるようにと励ましの言葉をいただきました。褒めること、励ますことの重要性を改めて実感しました。

さて、まもなく3月、人事異動の季節です。3名の教官が所属へ帰任します。

- 吉瀬 大介教官(富士山南東消防本部)
- 山田 友也教官(静岡市消防局)
- 望月 竜之介教官(志太広域事務組合志太消防本部)

吉瀬教官は教官最年長で物静かなリーダーとして、山田教官は初任科担当の鬼軍曹として、そして望月教官は話題豊富なムードメーカーとして、3年間がんばっていただきました。

マイカー通勤に加えて教官は宿直があり、私も体調が万全でないことから、飲みに行く機会が少なく、腹を割って話すことができなかつたのは心残りです。所属に戻っても健康に留意し、各本部を背負って立つ存在になるよう期待しています。

